

災害支援ボランティアセンターの活動を振り返って （[日本社会事業大学社会福祉学会]社大福祉フォー ラム2012報告） -- （各自主企画分科会からの報告）

著者	菱沼 幹男
雑誌名	社会事業研究
号	52
ページ	109-113
発行年	2013-01
URL	http://id.nii.ac.jp/1137/00000222/

被災地支援報告

災害支援ボランティアセンターの活動を振り返って

学部専任講師 菱 沼 幹 男

災害支援ボランティアセンター立ち上げへの思い

2011年3月11日、多くの人々にとって忘れられない日となったこの時、私はゼミの研究報告会のため学生達とA棟4階の教室にいました。かつて感じたことのない強く長い揺れに戸惑いながらも周りの教室にいた学生達とともに中庭へ避難し、持っていたノートパソコンで地震情報を集めるにつれて各地の被害状況が次々と明らかとなり、これ以上の被害があってはほしくないとの思いが悉く打ちのめされていきました。学内では学生達が帰宅できるように交通状況を確認しながら校舎内の学生を把握し、場所によっては教職員が手分けして帰宅途中に送り届ける中、自宅が高崎にある私は帰宅困難となり大学の研究室に宿泊しました。携帯電話もつながらず落ち着かない状況でまどろんでいた深夜3時頃、学生寮で暮らすゼミ生からの電話に飛び起き、信じがたい現実茫然としました。千葉県旭市に実家がある学生が「先生、どうしよう。家が流されちゃったよ」と泣きながら話す言葉に、なんと声をかければよいのか。ただ耳を傾け、その気持ちを受け止めるしかできないやるせなさ。ざわつく感情とともに夜明けを迎えました。

翌日から映像を通して伝わってくる被災地の状況に休みなく心を痛め、何をすべきか、何ができるか、私達が自らに問い始める中で、卒業を間近に控えた4年生のゼミ生達から、福祉を学んできた学生として被災地のためにできる支援をしたいという相談を受けました。それと重なるように学生委員会のボランティア担当として学生達を支え

てほしいという連絡を学生委員長より受けました。既に学生達はSNSのmixiで賛同者を募り始めており、今後、多くの学生達が災害ボランティア活動に関わっていくことが予想されました。こうした状況の中、大学全体として彼らの活動を支える体制を整備する必要性を感じ、災害支援ボランティアセンターを立ち上げられないかと考えるようになりました。急を要することであり、学生委員会や職員の方々に相談しながら具体的な検討に取りかかり、他大学のボランティアセンター等の例を参考に運営要領案をまとめ、3月22日の災害対策本部にて日本社会事業大学災害支援ボランティアセンター設立が承認されました。組織体制は、災害対策本部の下に義援金委員会と災害支援ボランティアセンターを位置付け、学長をセンター長とした時限的組織としました。

災害支援ボランティアセンターの目的

災害支援ボランティアセンターが整備されると同時期に、学生達が主体となった災害ボランティア団体S-CAN(エスキャン)や、教職員と卒業生有志によるボランティア団体One Strideも立ち上がっていきました。センターの第一義的な目的はこうした人々による災害ボランティア活動を支えることであり、災害支援ボランティアセンターへの登録によってボランティア保険加入手続きの説明や活動者の把握、災害ボランティア関連情報の提供を行うこととしました。また、卒業生や被災地からのボランティアニーズを受け付ける窓口を明確にすることも大切な目的でした。

宮城県内の保健センターへの体重計寄贈

災害支援ボランティアセンター担当として私が最初に被災地を訪れたのは4月7日の仙台。9日までの日程で大橋先生と現地ニーズの把握を目的

としたものであり、まだ新幹線は復旧していなかったため高速バスで現地入りしました。ちょうどその日の夜、私達は大きな余震に遭遇し、3月11日の地震がいかに大きなものであったかを思い知らされました。8日から9日にかけて公的機関や大学を訪問し、これまでの状況や現状のニーズについて伺った後、車で沿岸部を案内して頂き、初めて目の当たりにした津波の痕跡にまさに言葉を失いました。テレビでは決して伝わらない、風、におい、全ての視界を埋める光景。

この時の訪問で宮城県子ども総合センター本間所長から「県内沿岸部の保健センターで乳幼児用の健診セットが流されてしまって健診ができない」とのお話を伺いました。何とか支援したいと考え、災害対策本部での検討を経て、本学で集めた義援金の一部を支援物品購入のために活用することとなりました。どのような物品が必要であるのか、子ども総合センターの職員の方が各保健センターのニーズ集約を行って下さり、最終的に乳幼児用の体重計を沿岸部の保健センターに寄贈することができました。

福祉避難所「にっこう」への支援

5月には本学卒業生で栃木県内の高齢者デイサービスセンターで施設長をされている青木さんからボランティア募集の相談を受けました。福島からの避難者で介護が必要な方々を支える福祉避難所への支援に関わっており、自分達だけではどうしても土曜日の夜間帯が手薄になってしまうので、毎週末1～2名ずつ協力してもらえないかとの相談でした。6～7月末までという期間限定の支援であり、学生達に呼びかけたところ希望者が集まり、福祉避難所「にっこう」でのボランティア活動が始まりました。学生の交通費は全額、教職員労働組合から助成して頂き、活動内容はバイタルチェックや話相手等が中心でした。夕食後から朝方までという夜間帯での活動であり、限られた時間ではありましたが、学生達にとっては、福島から避難してこられた方々のお話を伺う中で、津波の被害とともに原発の影響について考える機

会ともなりました。

ボランティアバスの運行

災害支援ボランティアセンターとしては、学生達の主体的な活動を支えていくことを大きな目的として立ち上げましたが、学生達の気持ちを聞いてみると「何かしたいが自分に何ができるのだろうか」と悩み、行動する一歩手前で止まってしまうようでした。彼らの気持ちが行動につながるきっかけを作ることが大切であると考え、5月の連休明けからは大学としてボランティアバスを運行するための準備に取りかかりました。

広範な被災地の中でどこを支援するか、大学として継続的な関わりをしていくことも重視し、被災地の卒業生や被災地支援に関わる教員からの情報等を基に災害対策本部で検討した結果、社会事業研究所で関わっている岩手県大槌町と、宮城県気仙沼市への支援を中心に行うこととなりました。

気仙沼へのボランティアバスを6月に実施すべく、気仙沼市災害ボランティアセンターとコンタクトを取りながら、学生の授業状況や参加意向を踏まえ具体的な実施方法についてバス会社とも協議を重ねていきました。その結果、大型バスで金曜日22時に大学出発、車中泊で翌朝現地入り、活動後16時に気仙沼出発、23時に大学帰着という形で実施することとしました。

第1回目のボランティアバスは6月10日から11日にかけて実施することとなり、事前説明会では気仙沼市の地域概況や被害状況、ボランティア活動時の留意点等を伝え、訪れる地域を理解した上で活動することを重視しました。全員の学生にとって初めての被災地であり、この時は小雨が降る中、旅館の片付けや泥かきをさせて頂きました。多くの学生達は自分が片付けているものは単なるガレキではなく、そこで暮らしていた方々の大切な品々であるということを手にとって感じていました。ある学生は友人から「1日だけ行って何ができるんだ」と言われ、悩みながらも参加していましたが、地元の方から「みんなが来てくれるから自分もがんばろうという気持ちになれる」と声

をかけられて迷いをなくすことができ、被災地を訪れ活動してこそ見えてくる大切なことに気づいたようでした。

以後、毎月1回のペースで気仙沼へボランティアバスを運行し、7月8～9日は公園の泥かき、8月28～30日は漁網の整理、9月23～24日は4グループに分かれて田んぼの泥かき・個人宅泥かき・個人宅草刈り・拾得物洗浄を行いました。また、気仙沼以外では8月に大槌町教育委員会を通して子ども達への学習支援活動を行いました。

気仙沼での継続的な活動により現地の方々とも顔見知りとなり、連絡や活動もスムーズに行えるようになってきておりましたが、復旧復興が進む中でボランティアニーズも変化していきました。9月からは団体でのボランティア受付が見送られるようになり、また1日の活動者数も上限が設けられるようになってきたことから、本学としては気仙沼へのボランティアバスについて一区切りとすることにしました。

なお、これらの活動については大和証券福祉財団、赤い羽根共同募金会、日社大教職員労働組合からの助成金により実施できましたことに心より感謝申し上げます。

学生主体で実施したクリスマスボランティアバス

大学としてのボランティアバスは一旦中断しましたが、11月に入り学部1年生数名から被災地に行きたいとの相談を受けました。これまでのボランティアバスに参加したメンバーであり「被災地の子ども達に楽しい時間を届けたい。そのためにクリスマス会を被災地で行いたい」とのことでした。今までは大学側で企画した活動に学生達が参加する形であり、学生の主体的な活動を支援するというものではありませんでした。しかし、今回は学生達からの動きであり、たとえ大学からの補助がなくても自分達で企画し実行するという思いと行動力があれば支えたいと考えました。活動の受け入れ先を探す際には、その地域の社会福祉協議会に相談することだけを助言したところ、自分達で各地に連絡をとり、最終的に東松島市と気仙

沼市大島での受け入れが決まり、当日の企画について丁寧に話し合いを重ねるに至りました。大学として学生達の思いを支えるべく、災害対策本部の会議にて大学のボランティアバスとして位置付けることを決定して頂き、12月25～27日に1年生8名による被災地でのクリスマス会を実現することができました。後日の報告会では参加したメンバー達も最初は本当にできるのだろうかという不安な気持ちでいっぱいだったことを打ち明けていましたが、子ども達の笑顔に支えられ、楽しい時間を共有できたことは、やろうと思う強い気持ちがあれば実現できることがあるということを学ぶ機会となりました。

そして年が明け、学生達は「また来てね」と言っていた子ども達の気持ちを大事にしたいとの思いから、3月26～28日に再び東松島市と気仙沼市大島を訪れ、あそびの会を行うに至りました。子ども達との再会は、初回の活動以上に重要な意味を持つものであり、そのつながりの大切さは学生達の人生にしっかりと刻まれたことと思います。

おわりに

震災から日々月日が続いていく中、このセンターの活動を通して被災地への支援のあり方を考えさせられることが多くありました。「必要な支援は相手を生かし、必要以上の支援は相手の力を奪う」という視点が、被災地でのボランティアにおいていかに大切であるか、そしてこれこそがソーシャルワークの本質であることを痛感しました。

この災害支援ボランティアセンターの立ち上げから活動がスムーズに展開できたのは、日本のソーシャルワーク発展のために尽くされた故高橋学長の全面的な支えがあつてのことでした。深くよりお礼申し上げます。ありがとうございました。

【災害支援ボランティアセンター活動状況】

対策本部の下に設置された災害支援ボランティアセンターにおいては、①被災地および後方支援におけるボランティア情報の収集、②学生・教職員への災害支援ボランティアに関する情報の提

供、③災害支援に関するボランティアコーディネート、④被災地における卒業生の状況把握及びボランティアニーズの収集、⑤災害支援ボランティアを行う学生の登録、⑥関係機関との連絡調整、⑦被災者への支援、その他、目的を達成するために学長が必要と認める事業をおこなった。

災害支援ボランティアバスを8回運行し、参加者のべ人数は、教員7名、学生95名、職員7名であった。ボランティアバスの運行にあたっては、大和証券福祉財団の「災害時ボランティア活動助成」ならびに中央共同募金会の「災害ボランティア・NPO活動サポート募金」の助成を受けることができた。

また、本学卒業生からの依頼で福祉避難所「にっこう」での生活支援ボランティアとして学生が5回、のべ人数7名が活動した。

学内で行った募金については、中央共同募金会へ寄付した他、宮城県内の保健センターへの乳幼児健診用体重計の寄贈に活用させて頂いた。

<災害支援ボランティアバス活動状況>

第1回

日程 2011年6月10(金)～11日(土)
車中1泊
活動場所 宮城県気仙沼市
受入機関 気仙沼市災害ボランティアセンター
活動内容 建物屋内屋外の片付け
参加者 菱沼幹男専任講師(引率者)、
学生18名、職員2名、一般1名



6月気仙沼(旅館片付け)

第2回

日程 2011年7月8日(金)～9日(土)

車中1泊

活動場所 宮城県気仙沼市
受入機関 気仙沼市災害ボランティアセンター
活動内容 建物屋内屋外の片付け、泥かき
参加者 菱沼幹男専任講師(引率者)、
学生17名、職員1名



7月気仙沼(公園泥かき)

第3回

日程 2011年8月3日(水)～6日(土)
ユースホステル3泊
活動場所 岩手県大槌町
受入機関 大槌町教育委員会
活動内容 中学生への学修支援、薪割り
参加者 内田宏明専任講師(引率者)、
学生12名

第4回

日程 2011年8月28日(日)～30日(火)
車中1泊、旅館1泊
活動場所 宮城県気仙沼市
受入機関 気仙沼災害ボランティアセンター
活動内容 漁網の整理・金具外し、ガレキ運搬
参加者 菱沼幹男専任講師(引率者)、
学生23名



8月気仙沼(漁網片付け)

第5回

日程 2011年9月23日(金)～24日(土)
活動場所 宮城県気仙沼市
受入機関 気仙沼市災害ボランティアセンター
活動内容 泥かき、草取り
参加者 菱沼幹男専任講師(引率者)、
学生10名、職員4名



9月気仙沼(拾得物洗浄)

参加者 学生2名

第2回 日程 2011年6月18日(土)～19日(日)
参加者 学生1名

第3回 日程 2011年6月25日(土)～26日(日)
参加者 学生1名

第4回 日程 2011年7月9日(土)～10日(日)
参加者 学生2名

第5回 日程 2011年7月23日(土)～24日(日)
参加者 学生1名

＜宮城県内保健センターへの体重計寄贈＞

第6回

日程 2011年12月25日(日)～27日(火)
車中1泊、旅館1泊
活動場所 宮城県気仙沼市、東松島市
受入機関 気仙沼市・東松島市社会福祉協議会
活動内容 仮設住宅でのクリスマス会
参加者 岡崎利治実習講師(引率者)、
学生8名

仲介機関 宮城県子ども総合センター
寄贈先 石巻市北上総合支所保健センター
石巻市雄勝総合支所保健センター
塩竈市保健センター
南三陸町保健センター
女川町保健センター
東松島市保健センター

第7回

日程 2012年3月26日(月)～28日(水)
車中1泊、旅館1泊
活動場所 宮城県気仙沼市、東松島市
受入機関 気仙沼市・東松島市社会福祉協議会
活動内容 仮設住宅での春休み あそびの会
参加者 岡崎利治実習講師(引率者)、
学生7名

＜福祉避難所「にっこう」支援＞

活動場所 栃木県日光市
受入機関 デイサービスセンターふれあいの杜
活動内容 避難者への生活支援

第1回 日程 2011年6月4日(土)～5日(日)